



米子市埋蔵文化財センターたより

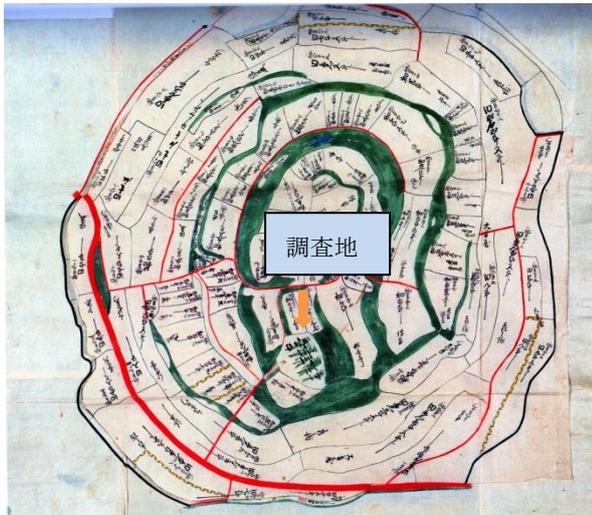


第28号

2018年3月

石井要害跡の発掘調査始まる！

— 西伯耆の出雲方面の防衛拠点 —



田畑地続字限絵図の石井要害



石井要害跡遠望

石井要害跡は中世の城館遺跡です。文化財保護の手立てが整備されていなかった昭和44年当時の宅地造成によって大半が無調査で造成され石井団地となりました。宅地造成では八幡神社の境内地と腰郭一か所が残されました。しかし近年、急傾斜地の崩壊危険が予想されたため斜面の保全工事が計画され、八幡神社の境内地の一部と腰郭が失われることになりました。そのため事前に発掘調査することになり、3月6日から発掘調査に着手しました。

今年度の調査は腰郭が対象で、腰郭は神社のある郭から9m下がったところにあり、約20×10mの台形状の平坦面で、現在の道路からは高さ7mを測ります。郭の上下とも急傾斜の切岸で守られています。現在、土塁などの遺構は確認されません。

石井要害に関する文献資料は少なく、幕末の「伯耆誌」にその名が見える城主としては片山小四郎や古曳吉種の名があります。城の構造は明治時代の田畑地続絵図から推察すると、楕円形をしており三段に築かれた郭があり、堀が巡っていたと推定されます。丁度デコレーションケーキのような形の城であったと考えられ、楕円形という特異な形が特徴的な城です。

この付近は法勝寺や出雲方面への道筋にあたり、近くの橋本七尾城（宝石城）と対になった西伯耆の防衛拠点であったと思われます。調査は来年度、八幡神社のある郭の一部が予定されており、石井要害の考古学的な情報がたくさん得られることを期待して調査にあたっています。（小原）

発掘調査情報

一米子城の謎の解明にむけて その8 豎堀現る!-

米子城跡も桜の季節となりました。さて、米子市教育委員会で行っております「史跡米子城跡保存整備事業」に伴う発掘調査、平成29年度は本丸北東側で豎堀を確認することができました。豎堀とは、等高線に対して直角に設けた堀で、敵の横方向への斜面移動を遮断するものです。今回確認された豎堀は、二の丸枡形から本丸番所跡方向に直線的に延びています。堀の全長は63m、深さは北壁側が約6m、南壁側で1mを測り、北側は急崖となっています。堀は、麓部分では城山大師裏の切岸に繋がり、山頂の番所跡では堀底は広がり、切岸に囲まれた空間となっています。



発見された米子城跡の豎堀

米子城を東から攻める敵は、切岸に阻まれ、さらに豎堀を登っていくと、本丸番所下の空間におびき寄せられ、そこから一斉に攻撃を受けるわけです。湊山の地形を巧みに利用して何重にも防御態勢を備えた米子城の姿が垣間見えてきたようです。(文化課 濱野)

整理室たより

越敷山古墳群人骨の鑑定整理

整理室では、元鳥取大学医学部長の井上貴央先生に來館していただき、越敷山古墳群から出土した人骨の整理を行っていただきました。

出土人骨は、2014年の国道181号(岸本バイパス)改良工事にかかる発掘で調査した越敷山70号墳や73号墳等の箱式石棺から出土した人骨です。

井上先生には、発掘調査時の石棺を開けた段階から立ち会っていただいております、今回は最終的所見の報告をいただくための鑑定整理となりました。

70号墳の人骨は出土当時の所見で高齢の女性と鑑定されており、更に彼女の詳しい情報を得るために整理鑑定に取り組みました。(佐伯)

一人骨の整理報告



人骨整理作業の井上先生

石馬谷古墳（小枝山5号墳）は淀江平野の東部の小枝山丘陵の山裾に所在します。全長61.2m、後円部径34.5m、高さ5mの前方後円墳で墳丘は2段築成で葺石が葺かれています。

淀江平野域の古墳の規模では、2番目の規模であり向山4号墳や長者ヶ平古墳と同じように、この地域の首長墓と考えられます。

埋葬施設は未調査のため不明ですが、石馬が樹立されていたと伝えられる古墳です。1989年の試掘調査で、円筒埴輪や朝顔形埴輪、須恵器が出土しており、6世紀中頃の築造と推定されています。

石馬は、福岡県八女市岩戸山古墳をはじめとして九州北部に数例ありますが、本州ではこの石馬が唯一のもので、古墳時代における九州との交流の一端を覗き知ることのできる貴重な石造資料です。

(小原)



上 石馬谷古墳墳丘図 下 石馬

コラム

江戸時代を掘る②

—米子城跡西町36-1地点—

この地点は、1992年に鳥取大学医学部付属病院の建て替えに伴い発掘調査されました。ここは、絵図によると中海近くの内堀と馬場、武家屋敷となっているところです。昭和になってから病院の施設など様々な建物が建てられ、かなり攪乱されていましたが、内堀の外側石積み、堀割、掘立柱建物跡、屋敷境界石垣、井戸、排水路、土坑などの遺構が検出されました。これらの遺構から15世紀後半から19世紀前半にかけての瓦、輸入陶磁器、国産陶磁器、鉄製品、木製品、古銭などの遺物が大量に出土しました。中でも注目されたのが、絵図にない大規模な堀割水路で、幅9.5m、深さ1.8mで南側に石段が設けられ、堀割は北へ伸びていましたが行先は調査区外のため不明です。このような米子城武家屋敷の知れていない遺構が、まだあることを物語っています。

(小原)



大規模な堀割水路

センター・資料館日誌

- 1月10日(水) 井上貴央先生が出土人骨の整理で来館された。
- 1月23日(火) 東大大学院留学生アキアン・ミリアン氏(パリ大学)が妻木晩田遺跡を中心に文化財保護資料の調査のため来館された。
(2月9日まで来館して調査)



資料調査中のミリアン氏

- 2月2日(金) 岡山理科大学学生・平山氏がインターンシップで16日まで来館した。
- 2月9日(金) 上淀白鳳の丘展示館井上学芸員が資料調査で来館された。
- 2月16日(金) 上淀白鳳の丘展示館の井上学芸員が資料調査で来館された。
- 2月20日(火) 鳥取県ミュージアムネット総会へ平木副館長が出張した。
鳥取県文化財保護担当者会へ佐伯統括が出張した。
- 3月3日(土) NHK文化センター講座「米子城を攻る！」が開催された
講師は文化課・濱野主事
- 3月6日(火) 石井要害跡の発掘調査が開始された。
- 3月9日(金) 佐伯統括調査員が鉄器のX線撮影のため、鳥取県埋蔵文化財センター秋里分室へ出張した。

- 3月11日(日) 米子アカデミー講座「大山と米子城」開催された。
講師は文化課・濱野主事
- 3月16日(金) 深田氏庭園修理委員会が開催され小原館長が出席した。
- 3月17日(土) 米子アカデミー講座「大山と米子城下町」が開催された。
講師は文化課・濱野主事
- 3月19日(月) 経済同友会米子城フォーラム「米子城—その価値と魅力—」が開催された。
講師は文化課・濱野主事
- 3月22日(木) 山陰歴史館運営委員会が開催され、小原館長が出席した。
- 3月23日(金) 島根県古代文化センター学芸員が上淀廃寺跡出土の壁画の調査に来館された。

編集後記

今年の冬は例年になく大雪で1月の後半から2月の前半は毎日のように雪が降り積もり、雪かきに追われる日が続きました。天候不順のためか来館者も少なく、早く春が来ないかと待ち望んでいました。

三月に入ると少し春めいてきて、福市史跡公園の桜のつぼみも膨らんで、もうすぐ満開となります。

四月からの新年度には、また日南町宮の段遺跡や米子市石井要害跡、米子城跡の発掘調査が始まるので、その成果が期待されます。

発行日 平成30年3月26日

発行者 米子市埋蔵文化財センター

指定管理者 (一財) 米子市文化財団

電話 0859-26-0455

Eメール yonagomaibun@clear.ocn.ne.jp